

環境

物流事業における環境負荷は避けられません。いかにして負荷を減らし、環境にやさしい持続可能な事業を実現できるか、NRSグループは考え続けます。

環境方針

当社は、化学製品を中心とした運送・保管業務およびその付帯する業務を展開する中で環境汚染の予防に配慮した物流を推進する。

環境に関する法令、条例、その他締結した協定、申し合わせ等を遵守する。

当社の事業活動が環境に与える影響を考え、地球温暖化、大気汚染等に重大な影響を与えるCO₂の排出削減等、次に掲げる項目に対して重点的に取り組む。

(営業所、グループ会社が行う環境に関する活動の支援、推進、管理等を含む)

1. 大気汚染防止、水質汚濁防止および地球温暖化防止対策
2. 廃棄物の適正な管理とリサイクルの推進による廃棄物の削減
3. 省資源、省エネルギー、グリーン購入の推進

■ カーボンニュートラルの実現を目指して

NRSでは政府方針を前倒し、2046年創立100周年の節目にカーボンニュートラル達成を目指しています。

当面の目標である2030年電力の脱炭素化完了に向け、2025年度は国内1拠点で電力契約の見直しを行い、国内14拠点でCO₂フリー電力導入を完了しました。

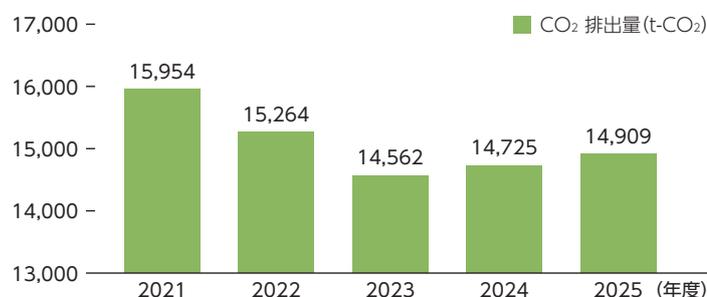
また、現状可視化推進策としてScope管理へ着手、計画的な脱炭素化を今後も継続します。

■ CO₂排出量削減への取り組み

NRSでは、事業活動で発生するエネルギー使用量やCO₂排出量を把握しています。

2025年度は、CO₂フリー電力導入を進め電力に関わるCO₂109t₂の削減を実現しましたが、軽油等の使用量増加のため全体としてCO₂184t₂増加しました。

今後もカーボンニュートラルが達成できるように取り組んでまいります。



Scope別CO₂排出量

NRSでは2046年のカーボンニュートラルへ向け、2019年度よりScope1, Scope2の集計を行っております。直近5年間で電力に関わるCO₂排出量は確実に下がっていますが、軽油等は稼働増加のため増えました。

2025年度Scope別CO₂排出量
 Scope1（軽油、重油、ガソリン、灯油、LPG、都市ガス）： 10,170t-CO₂
 Scope2（電気、蒸気）： 4,739t-CO₂

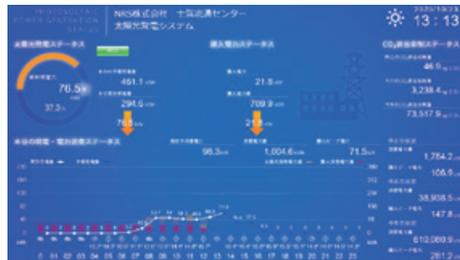


省エネ・再エネ化推進の具体事例は下記の通りです

1. CO₂フリー電力導入：国内29拠点中14拠点で切り替え実施
2. 太陽光発電設置：国内物流センター5拠点および熊本支店に設置
3. 照明LED化：国内倉庫全拠点に設置
4. エコドライブの推進：国内トラック業8拠点でグリーン経営認証取得



土気流通センターに設置した太陽光パネル



太陽光発電状況

■ タンクコンテナのサーキュラー（エコノミー）展開

ISOタンクコンテナ、IBC等は製品積載後洗浄してリターナブルな容器として長期にわたり使用できるだけでなく、タンク本体は耐食性の高いステンレススチールで製作されており老朽化して代替する際にはスクラップ処理を通して、ステンレススチールとしてリサイクルされています。

本年度は老朽化コンテナ100基を廃棄、リサイクル工程へ回しております。

NRSは引き続き代替エネルギー用タンクコンテナ、溶剤用金属製小型容器などの様々な種類のリターナブル容器の開発、導入を実現することで環境負荷低減、廃棄物の削減および限りある資源の有効活用を行ってまいります。

環境汚染の防止

大気・水質の維持・改善を確実に実行しています。環境値管理の徹底で環境トラブル発生ゼロを継続しています。また、環境ISO認証の取得範囲を広げています。2025年度は中部物流センターおよび東海倉庫、九州物流センターで新たに認定取得しました。